頬を伝わる風が和らぎ、春の兆しを感じる季節となりました。本日は、私たちのためにこのような素晴らしい式を挙行してくださり、誠にありがとうございます。また、ご多忙の中、御臨席いただきましたご来賓、先生方、保護者の皆様に卒業生一同厚く御礼申し上げます。先程より皆様から頂いた励ましや餞の言葉を胸に、私たち１２９名は、本日卒業いたします。

暖かい陽射しを感じると、入学式の日が思い出されます。高校入学に際しては、嬉しさや期待が大きく膨らむ反面、誰もがこれからの高校生活に不安を抱いていたことでしょう。3年前、新型コロナウイルスの影響を受け、私たちは二回に分散して入学式を迎えました。これから高校生活を共にする同級生が一同に会することはできず、未曾有の事態に大いに戸惑いました。

さらにはマスクをしていたことで、入学当初は同級生との「心の壁」を感じるときもありました。表情が見えず、相手がどう思っているだろうか、仲良くなれるだろうか、とても心配でした。しかし、そんな制限がある中でも切磋琢磨しながら勉学に励み、さまざまなイベントを過ごしていくにつれ、お互いに打ち解け絆が深まり、クラス全体が笑顔で溢れていきました。そのおかげで慣れない学校生活も楽しくなり、充実した毎日を過ごすことができました。

私たちの高校生活を彩った出来事には修学旅行と学校祭があります。

修学旅行は、2度にわたる延期を経て、昨年の5月に行くことができました。新型コロナウイルスが猛威を振るう中、先生方は何度も代案を練り、私たちが楽しめるように尽力してくださいました。迫力満点のアトラクションや、お腹いっぱいになるまで食べた夜ご飯、クラス別での嶺南旅行。すべてが楽しく幸せな時間で、思い出深いものとなりました。

高校生活最後の学校祭では、全員が必ず成功させようと意気込んでいました。それぞれの思いがあるからこそ、意見が上手くまとまらず焦り、緊張感が走る空気になったこともありました。それでも、みんなで協力し合い、本番まで走り抜いたこの日々は今までで一番輝いていた瞬間だと思います。一生忘れることのない素晴らしい思い出と達成感で溢れました。

また、私自身はこの三年間、部活動に力を注ぎました。書道部での経験は、自分自身と向き合い、大きく成長することができた貴重なものです。しかし、決して楽しい思い出だけでなく、字が上達しなかったり、新型コロナウイルスの影響で、書道パフォーマンスの機会が奪われてしまったりなど、投げ出したくなることも多々ありました。皆さんの中にも、主要な大会が中止や欠場になり、断腸の思いで現実を受け止めた人もいたことでしょう。

それでも、部活動を通して感じた部員との絆や、たくさんの人との出会いなど、決して一人では得難い経験は、私の心を豊かにしてくれました。この先も続けていきたいと思えることを見つけられたことは、私にとって大きな財産です。

私たちがこうして成長することができたのは、担任の先生をはじめとした、多くの先生方の存在があったからです。先生方はいつも寄り添い、LH や学校行事では私たちと同じ目線になって取り組んでくださり、楽しい時間を共有できました。3 年生になってからは就職活動や受験勉強に追われ、生徒全員が不安や葛藤で押しつぶされそうになっていたと思います。そんな時、一人ひとりと向き合い、朝早くから夜遅くまで、進路相談に乗ってくださいました。先生方の言葉で心が救われ、頑張ろうと前向きな気持ちになり、成長することができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、18 年間一番近くで温かく見守ってくれて、背中を押して応援してくれた家族。そんな家族の存在が何よりも心の支えでした。毎日送り迎えをしてくれたり、お弁当を作ってくれたり、真面目な話も他愛もない話も聞いてくれたり。たくさんの愛情を感じました。時には進路や将来について衝突することもありましたが、それも私のことを真剣に考えてくれていたからこそだと思います。いつも支えてくれる家族がいたことで今日この日を迎えることができたのだと、本当に感謝しています。

三国高校で過ごした 3 年間がそうであったように、時間は瞬く間に過ぎ去っていきます。こうして卒業式を迎えた今も、まだ卒業するという実感が湧かず、これからも高校生活が続くような気がします。私たちはこの三年間で様々なことを学びました。それは、学校の授業で得られる知識だけでなく、周りには支えてくれる仲間の存在があることです。多くの人と出会い、関わっていく中で育まれた絆や友情は、かけがえのない宝物です。

これから私たちは、それぞれの道を歩みます。目まぐるしく変化し、未だ先行きの見えない状況の世の中で、今まで経験したことのない大きな壁にぶつかることもあるかもしれません。しかし、そんな時はこの三国高校で過ごした日々を思い返してみてください。たくさんの学びや経験、そして仲間との思い出が前へと進むための、大きな助けとなるはずです。

最後になりましたが、これまで私たちを支えてくださった方々への感謝の気持ちと共に、三国高校の益々のご発展を祈念しまして、答辞とさせていただきます。